

# 瓦塔 (がとう)



ふくやま す え き かまあと  
**福山須恵器窯跡 瓦塔**

このペーパークラフトは、砺波市福山にある福山須恵器窯跡から見つかった、貴重な焼き物「瓦塔」をモデルにしたオリジナルデザインです。

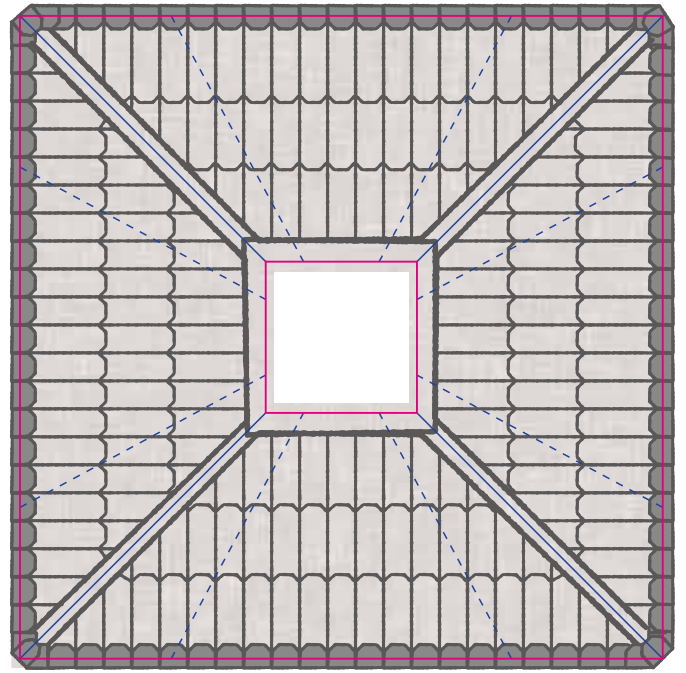
## 瓦塔ってなあに？

瓦塔とは、奈良時代から平安時代(約1200年前)にかけて、お寺の五重の塔などを真似て須恵器(すえき)という硬い焼き物で作られたミニチュアの塔のことです。

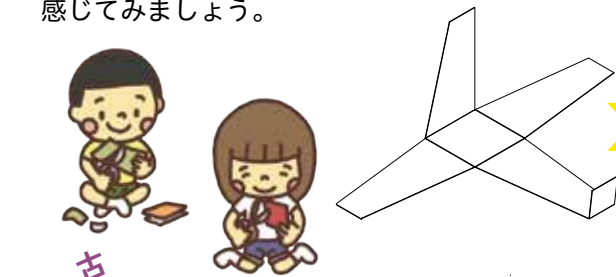
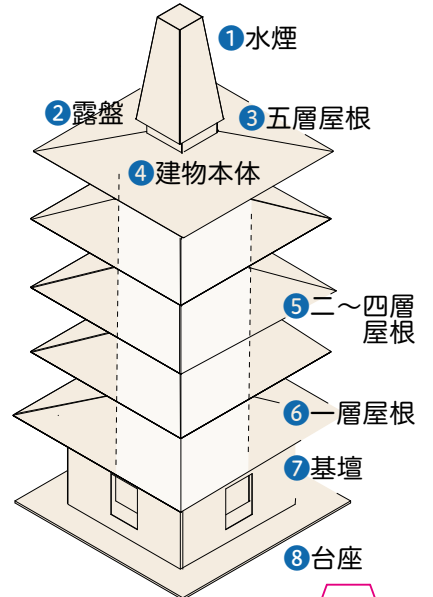
## 福山の瓦塔は特別!

福山で見つかった瓦塔は、奈良時代の8世紀後半に作られたもので、砺波市内ではここからしか見つからない、とてもめずらしい宝物です!

さあ、このペーパークラフトを組み立てて、奈良時代の人々が込めた願いや、遠い昔の人々が抱いた思いを、ぜひ感じてみましょう。

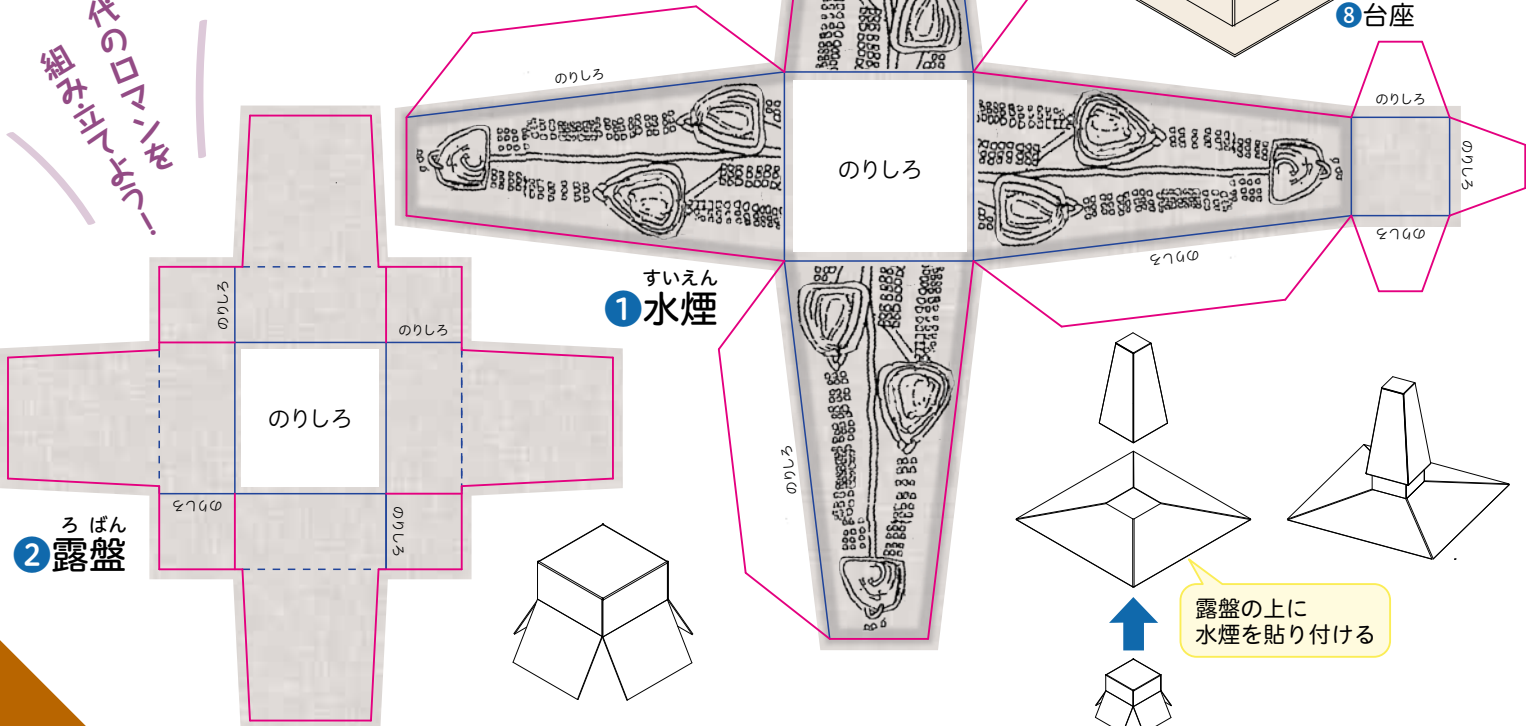


## ③ 五層屋根



スタート

おせろローラー  
 細さ:10mmが1mm



露盤の上に  
 水煙を貼り付ける

最初に『①水煙』と『②露盤』、『③五層屋根』を組み立てるよ

—— 山折り線  
 ..... 谷折り線

# 「福山須恵器窯跡出土品」ってどんなもの？

## 砺波市指定文化財

- ・指定された日：昭和43年7月24日(今から50年以上前！)
- ・どこにあるの？：砺波市頼成566(砺波市埋蔵文化財センター)

見つけた宝物は  
こんなものだよ

砺波市の福山にある「徳万赤坂(とくまんあかさか)」という場所の、昔の焼き物(須恵器)を作る窯(かま)の跡から、特にめずらしいものが選ばれて「市の宝物(文化財)」に指定されました。

台紙3 豆知識

瓦塔



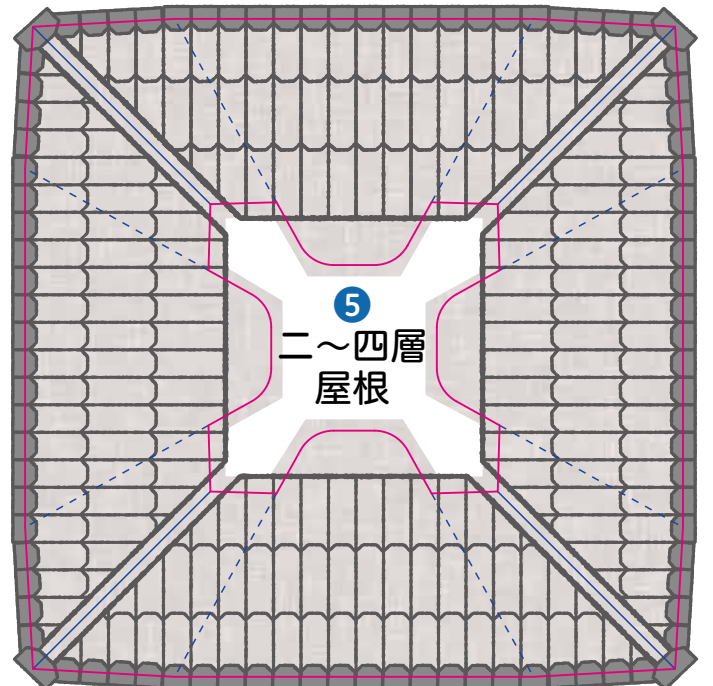
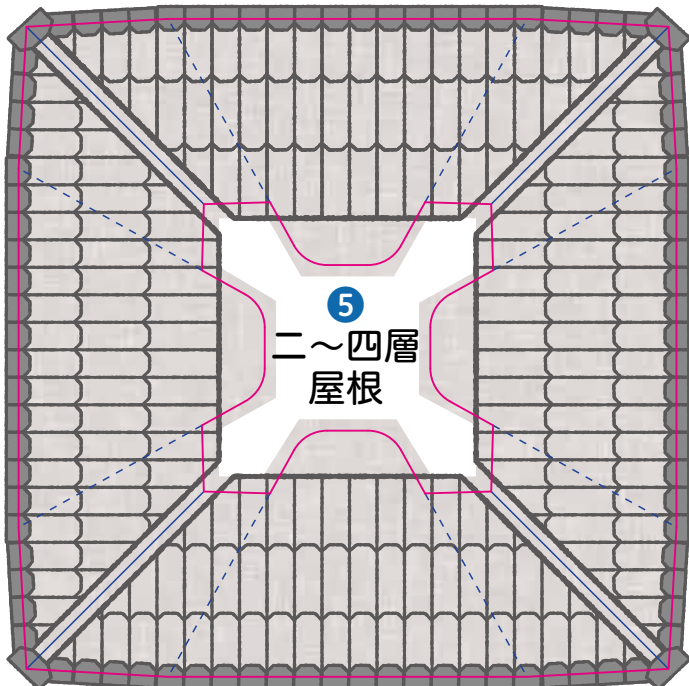
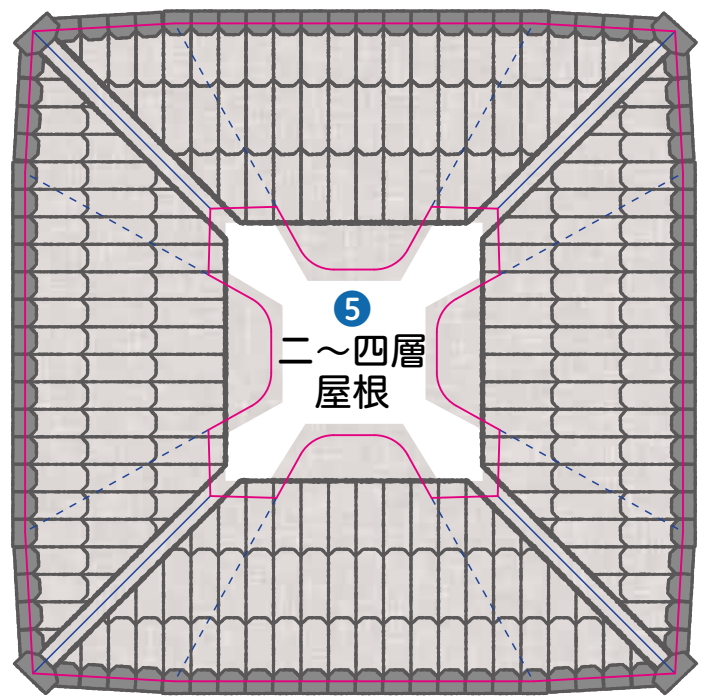
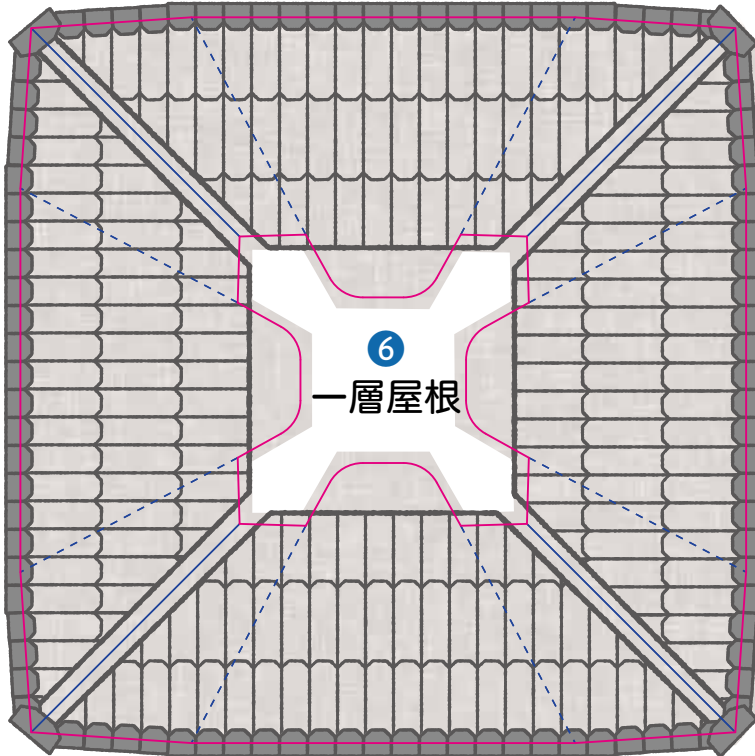
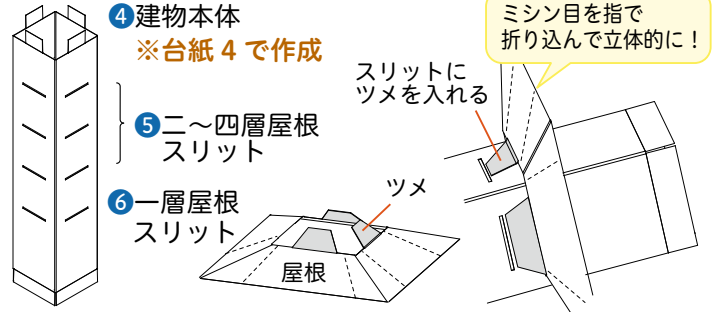
土馬



石硯

指定されたのは、次の6点です！

- ・瓦塔(がとう)：4点(お寺にある「五重の塔」などを、焼き物で作ったミニチュア模型です。部品が4つあります。)
- ・土馬(どば)：1点(馬の形をした焼き物の人形)
- ・瓦硯(がけん)：1点(焼き物で作られたすずり)



台紙4 で作った建物枠と屋根をツメを差し込んで取り付ける

— 山折り線  
..... 谷折り線

## 窯（かま）ってどんなところ？

### 7 基壇

この窯跡は、丘の斜面（ななめになつてるところ）を利用して作られた、半地下のトンネルのような形をした「甕窯（あながま）」という種類の窯です。

- ・ **いつ使われたの？**… 奈良時代（今から約1200年前）の8世紀後半を中心として、焼き物作りが行われていました。
- ・ **どのくらいの大きさ？**… 昭和37年の発掘調査で、長さが約12メートル、一番広いところで幅が約2メートルもある大きな窯だったことがわかりました。
- ・ **何を焼いていたの？**… お茶碗のような形の「杯（つき）」や「甕（かめ）」というツボなど、たくさんの須恵器がここで焼かれていました。

### 豆知識

**瓦塔**は、五重の塔のような仏教の建物（塔）を、粘土で小さく作ったものです。奈良時代から平安時代にかけてよく作られました。

福山窯で見つかった瓦塔は、塔のてっぺんの飾りの部分 水煙（すいえん）という部分に、3つの蓮（ハス）の花のつぼみがへうで描かれています。その間は、けむりのように見える小さな点々（列点文）でうめつくされています。

**屋根の部分**「屋蓋（おくがい）」には、真ん中に四角い穴があいています。

#### 東大寺との関係

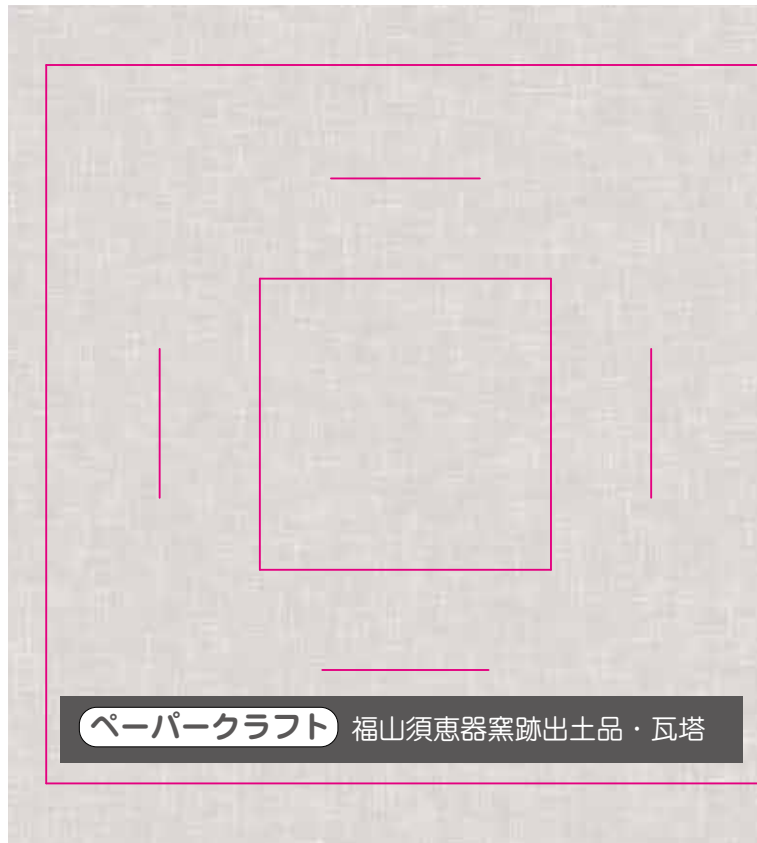
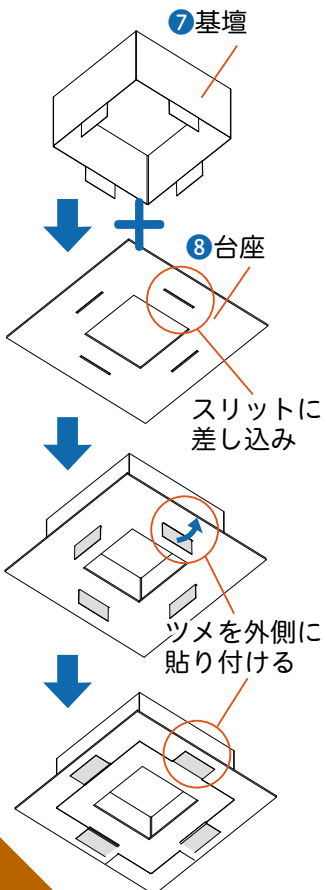
この福山窯は、奈良にある東大寺が持っていた田んぼ（墾田地（こんでんち））に近い庄川の右岸にあったため、東大寺と深いつながりを持ちながら焼き物を作っていた、と考えられています。



水煙

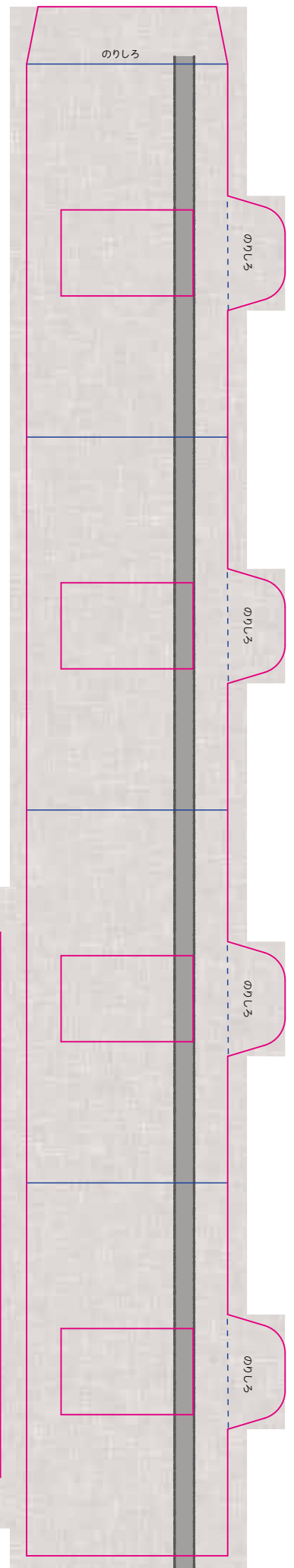


屋根（屋蓋）



### 8 台座

7 基壇と 8 台座を貼り付けたら、台紙 4 の取り付け手順に



—— 山折り線  
 ..... 谷折り線

